

「わが高校においでよ」

2024年度の生徒全国募集へ向け、青森県内の県立高校5校が10日、入学希望者を対象としたオンライン合同説明会に参加した。県南地方からは三戸、名久井農業、大間の3校が登場。発表者には本年度入学した全国



三戸高や地域の魅力について発表する（右から）千葉優思さん、高村智輝さん、村田修子さん。下宿生活を紹介する場面では笑みがこぼれた。10日、三戸町のコワーキングスペースSANNOME

三戸、名農 全国募集の1期生ら

来春に向け魅力発信

募集の先輩も加わり、学校生活や地域の魅力を生の声でアピールした。
（上條智洋、佐々木佑紀）



実習や地域交流などの魅力を語る名久井農業高の生徒。10日、同校

生徒の全国募集は23年度に三戸、名久井農業、鯉ヶ沢、柏木農業の4校が取り入れ、24年度は新たに大間も導入。「地域・教育魅力化プラットフォーム」（松江市）が窓口となつて合同説明会を主催し、全国各地の導入校がオンライン上で学校生活や宿泊施設、地域の特徴などを説明する。

三戸高の発表には、全国募集で入学した1年千葉優思さん（16）と、高村智輝さん（16）と、名古屋市出身の2人が登場。2人の生活をサポートする町地域おこし協力隊員の村田修子さんと共に、学校や下宿で和気あいあいと生活する様子を紹介した。千葉さんは母親が三戸町出身。親戚から同校が全国募集を始めたことを聞き、「母にゆかりのある町のことをもっと知りたい」と入学を決めた。現在の生活に

ついて「友達もでき、下宿を含めて伸び伸びとした環境で過ごせている」と満足。高村さんは資格取得に補助があることや、全国募集の1期生になれることに魅力を感じて入学した。初めての土地だが、「通学で駅の混雑に巻き込まれることがないし、周りの人が自分をしっかりと見てくれる感覚がある」と充実感をにじませた。

本年度、青森県外から1人が入学した名久井農業高は、農業クラブの生徒4人が実習をはじめとする学校生活や、同校が立地する南部町の魅力を発表。地元農家との作業や研究、自然豊かな果樹の里をPRした。生物生産科3年の宮川志帆さん（17）は「生徒同士が協力し、収穫や試食ができるのは名農ならではの」と強調。同3年の砂庭小春さん（17）は「今はまだ1人だけと、学校の魅力をもっと全国に知ってほしい」と力を込めた。